

お経について (その5)

お経の読まれる場でおこなう動作の意味

仏式葬儀などお経が読まれる場面で、当たり前のようにおこなっている「合掌」、「礼拝(らいはい)」、「読経」ですが、これらの動作にもきちんとした意味があります。

【合掌(がっしょう)】

顔や胸の前で、左右の手のひらを合わせる動作が「合掌」です。合掌は仏様を信じていることを表す動作の1つです。

右手は仏様そのものであったり悟りの世界であったりします。そして左手は「自分」です。通夜や葬儀の場では、仏様と自分(衆生という)が一体となって、故人の成仏を願い、仏さまに故人の今後を託す気持ちを表現しています。キリスト教などでも似た動作はありますが、意味や細かな点が異なり、合掌は仏教特有のものといえます。

【礼拝(らいはい)】

合掌の姿勢で上体を45度くらい前方に傾けて、礼をして、ゆっくりと上体を起こす動作です。

礼拝には、お礼をするといった意味や感謝するなどの意味があり、祈ることはありません。

【読経(どきょう)】

お経を声に出して読むことです。記されている内容を覚えるため、もしくは人に教えを説くための行為です。

通夜や葬儀の時に、亡くなった人の仏前で読経しますが、これは参列している親族や近い人に説法するという意味もあります。



護持会報恩講の参拝者



帳場世話人の皆様

コロナ前の参拝者数には未だ戻りませんが、参拝者同士の交流を見ておりましたら心が温まり、なんだか微笑ましかったです。

さてこの住職レターを書いた本日、護持会報恩講を勤めました。

このまま収束してくれることを、ただただ祈るばかり。

ここ最近、気になる言葉があります。「人流の抑制・・・」、私たち人の動き流れを、人流というのだとか。どうも違和感があります。人をモノ扱いしているというネガティブな思いからか、「ジンリユウ」という音読みにも、違和感ありあり・・・。

コロナ禍においての感染防止策は、人と会わないこと、人とは距離をとることでした。当然、握手や肩に手を添えたりはご法度。コロナ収束後の世界は、今まで以上に、人と人の心温まる交流が出来るでしょうか？

住職レター

コロナ禍の収束が見えてきたのか、新規感染者数が減ってきました。第六波、くるでしょうか。もうひと踏ん張り、辛抱する時でしょうか。しかし、今まで不急不急の外出を控え、身内の葬式であっても、県外だからという理由で、参列を自粛してきました。友人と飲み会にも行きたいでしょうし、家族で外食したいところだと思います。